



出荷された梨を検査する担当者

## 歯応え十分

三重・JA伊勢  
小俣 部会

【三重・伊勢】伊勢市小俣町にあるJA伊勢小俣集荷場で7月下旬、梨「幸水」の出荷が始まった。

同JA小俣梨部会では、8月中旬までに3<sup>キ</sup>化粧箱と5<sup>キ</sup>箱合わせて約28

トを県内市場に出荷する見込み。同JA管内では部会員19人が、約6<sup>ヘ</sup>で「幸水」などの梨を露地栽培している。同町は伊勢

平野の温和な気候に恵まれ、甘くてシャリシャリした歯応えの梨が育つ。

今年産について、同JA担当者「適度に雨が降ったこともあり順調な生育となった。糖度も高くみずみずしくておいしい梨に仕上がっている。

贈答用で盆需要に期待している」と話す。

同部会では、先進地視察などを積極的にし、生産者意識の向上と産地づくりに努めている。市場と連携して盆需要の販売に力を入れている。